

令和7年度 第2層生活支援コーディネーター交流会



交流会の様子

全国的に高齢化が進んでいますが、このことは橋本市でも同様です。（橋本市の高齢化率 35.7% 令和8年2月末現在）そんな中、これからも自分たちが住む地域で、安心して暮らし続けるためには、いざという時に駆けつけてくれたり、ちょっとしたお手伝いを頼めるような地域を創っていくことが必要です。そのために、日ごろから声をかけあったり、気にかけてあったりするような地域づくり「つながりのある地域」が大切です。橋本市では、地域づくりの基盤となる「協議体」を市内10地域に設置し、住民のみなさんが主体となつて話し合いが進められています。現在、地域に第2層協議体が設置されています。協議体の進捗状況や地域の取組みなどを紙面にてご紹介します。

去る、12月21日(日)橋本市保健福祉センターにおいて、令和7年度第2層生活支援コーディネーター交流会（生活支援体制整備事業）を開催しました。橋本市で、生活支援体制整備事業が始まって、



▲和歌山大学経済学部長・教授
金川めぐみ氏

今年で10年目を迎える節目の年に、地域で中心的な役割を担っていただいている第2層生活支援コーディネーターのみなさんに参加いただきました。

講師には、いつも暖かく見守っていただいています、和歌山大学経済学部長・教授の金川めぐみ氏をお招きして「包括的支援とコーディネーターの役割」と題しての講演と、グループワークの進行をお願いしました。

金川先生からは、あらためて第2層協議体とは何か、また、生活支援コーディネーターの役割等についてお話しいただきました。

協議体では、地域住民のみならず参加のもと「高齢者の社会参加」（趣味、ボランティア活動等）と「生活支援・介護予防サービス」（見守り、外出支援等）の2つのテーマに基づいて話し合いをつみ重ねていきたいと思います。

また、地域の協議体を基盤として、将来的には高齢者に限らず、地域丸ごとのつながりを強化し、複合的な課題にも対応できる「地域共生社会」の実現を目指していくことになりまますとお話いただきました。

講演のあとは、第2層生活支援コーディネーターのみなさんでグループワークを行いました。

現在、コーディネーターの状況は、全体で約50人の方々が担ってくれています。協議体発足当初から担ってくれている方、つい最近の方と違いがあります。

今回、これまでを振り返ると共に、これから目指していくことについて、楽しく語り合いました。

アンケートでは、他の協議体のコーディネーターと普段は交流がないので、いろいろなアイデアを実践していることを参考にできました。今後は、移動支援の取り組みを考えます。そのほか、引きこもりの予防や次世代とのつながりづくりという声がありました。

来年度も交流会の開催を希望する声も多かったので、引き続き交流会を開催したいと考えています。

～活動紹介～ 中島ささえあう会

「中島ささえあう会」（隅田町中島）では、地域の高齢者のみなさんの孤立や孤独をできるだけ防げる、つながりのある地域を目指して2か月に1回、見守り訪問活動をしています。

訪問日に、集会所へ伺ってみました。スタッフのみなさん終始笑顔で、とてもよい雰囲気です。

訪問の時に一緒にさせていただきました。首を長くして楽しみに待っておられて、早速、おしゃべりが始まり、和やかな雰囲気でした。

定期的な訪問は、安否確認と健康状態の把握につながり、社会的なつながりやふれあいの機会になっていると思います。

